



創刊 1975年 親

No. 894

2019/5/25

中日友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒111-0953
東京都台東区浅草橋2-2-3
浅草橋555番
電話 03-5829-2149(FX)
FAX 03-5829-2141
http://www.jcf-net.jp
E-mail: jcf@jcf-net.jp
社址 10119-1-2117

日中友好協会
岡山支部
〒709-0034
岡山市北区下伊福
西町1-59 民生会館1F
TEL/FAX 0861-258-8406

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8031
倉敷市福成町東32461-45
TEL/FAX 0861-411-7800

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhongyouhao.jinaa.net
メールアドレス
rizhongyouhaoiehiokayama@yahoo.co.jp



第32回岡山きりえ展

—緻密な描写が目を引く—

日中岡山支部 小林軍治

5月7日(火)から12日(日)まで、岡山県天神山プラザで、第32回岡山きりえ展が開催されました。この展示会は、岡山きりえの会(事務局は横谷敦子さん方)が主催しています。

日中岡山支部は、協賛団体として、展示会の案内や参観した感想を「日中岡山」に掲載してきました。

私は、横谷さんが当番の日に参観しましたこの日は、竹内宜子さんも受付におられました。

年一回、この時期に、この場で再会し、切り絵や太極拳など日中友好の



竹内宜子さんと横谷敦子さん



小林軍治さんと横谷敦子さん

話をするのが楽しみです。参観記念に、横谷さんの「つぶく」と竹内さんの「雨上がり」の前で写真を撮りました。

会場には、15人の方の季節感のある風景画をはじめ人物・動物・植物画など35点が展示されていました。

作品では、佐々木ふさ子さんの「忙しすぎる毎日」や守屋つや子さんの「ち密な描写の「瀧」が目を引きました。

日中岡山支部は、きりえは日中友好の心情を育む文化活動の一つとして大切であると考えています。今後とも協賛団体として、日中会員の参観者を増やすなど協力していきたい。

中国映画を見る会

日中友好協会倉敷支部

「サンザシの樹の下で」

大本芳子

ライブパーク倉敷で表記の映画会をしました。40数人の人が参加しました。

文化大革命の嵐の中で、はかなく散った青年と少女の悲しい恋を描いた実話に基づくラブストーリー。

中国全土が涙した究極の純愛に私たちも涙を流しました。文化大革命



命に翻弄された切ない余りにも切ない恋物語。
大好評でした。その中で思ったのですが、中国映画を観るときは、上映の前にその時代背景を少し勉強する場をつくるいいなあと思いました。次会から実践しよう。



『日中戦争の全貌と教訓』笠原十九司さんの講演

第8回「勝利なき二つの戦場での戦い—1940年」

5月12日(日)の午後1時半から表記の題の講演を聞きに行ってきました。

初めに、憲法9条について触れられ、9条には幣原喜重郎とマッカーサーの秘密会談が関係しているといわれました。現在の安倍改憲もアメリカの押しつけである。今も戦争の時代もおろかしい嘘がまかり通っている。

“華北における治安戦(三光作戦)”

日中戦争において、華北で日本の占領統治地域を確保、安定させることが「治安維持」として解釈され、そのための戦闘行為が「治安戦」であった。つまり、国際法でいえば侵略戦争・侵略行為が「治安戦」と言い換えられたのである。

その日本軍の「^{じんめつそうとう}殲滅掃蕩作戦」とは「燃えかすが残らないほど徹底的に滅ぼし、払い除く」という意味であり、中国語の三光(殺しつくす、奪いつくす、焼きつくす)作戦と同じである。民衆をふくめた中国共産党勢力の壊滅をはかり、まさにジェノサイド(集団虐殺)が、華北の抗日根拠地とされた地域に実施された。中国共産党史によると、死傷者3000万人。

“重慶爆撃”

抗日戦争の首都となった重慶市の市街地の破壊と住民の殺戮を目的とした都市無差別爆撃であり、アジア太平洋戦争末期に、日本の諸都市がアメリカ空軍から被った都市空爆の先鞭をつけるものであった。東京裁判においても、アメリカの強い意向によって、海軍航空隊の中国諸都市への無差別爆撃は、訴追されなかった。

41年7月末から8月末まで、アジア太平洋戦争の開戦に備えた総合訓練のため、日本内地の航空隊も参加し、102号作戦と呼称して中攻機百数十機による重慶大空襲が連日のように繰り返された。(真田)

「中国残留孤児の歴史と交流」私たちは日本人です」に参加して (1)

日時：2019年5月10日(金)

18:30～20:00

場所：福祉交流プラザ岡輝

講師：高杉久治、
解説者：小林軍治

2019年5月10日(金) 18:30から福祉交流プラザ岡輝で中国残留日本人孤児と基本的人権をわたりたいは、なにじんですか(残留孤児は日本人)という講演会が開催された。1月18日の龍爪開拓団と私(小林軍治)、3月4日青木康嘉の岡山県が送出した開拓団」に続く第三回目の講演会であった。主に地元元保・幼・小・中の教員研修会でもあり、地域の人への人権研修会の役割を持っている。参加者は約30名(主催者の人を含む)であった。

はじめに、小林軍治が「中国残留孤児の厚労省の定義」の検討分析から講演は始まった。特に、厚労省が中国に残った13歳未満の子を残留孤児と呼び、13歳以上は自分の意思で残留した残留邦人(婦人)」と呼ぶ問題を提起した。

日本政府は残留婦人・残留孤児の存在を知りながら「戦時死亡宣告」をし、棄民した。しかし、本当に自分の意思で残留を希望したのか?」あの厳しい寒さと飢えと癩疹チフスをはじめとする病の中で、そうせざるを得なかった歴史を直視すべきであると語った。



次に、高杉久治が養父母に引き取られるまでのいきさを語った。

1939年父親が満州に渡り、翌年母親は大陸の花嫁として七虎力開拓団に入植した。自分は1941年11月に七虎力開拓団吉備津郷で生まれた。当時、七虎力開拓団には、岡山・山口・兵庫・鳥取・島根の五県から、約626名の開拓団員が入植していた。1944年7月に弟の悟も生まれた。しかし、1945年5月父親の方は、関東軍の召集を受けた。所謂「根こそぎ召集」である。

父の方は、シベリア抑留され1946年10月に引き揚げている。1945年8月9日ソ連が参戦した。

七虎力開拓団には、召集された129名を除く高年齢の役員男性と女性子どもばかり約500人の逃避行が始まった。土砂降りの中を出発した開拓団員の馬車を狙った「匪賊(反満抗日農民)」が8月15～16日にか

て襲撃があった。七虎力開拓団女性・子ども達の中から集団自決も起こった。弟を連れて母親と手が離れた高杉久治は、翌朝張家屯の橋のたもとの麻畑で芦日新さんに拾われ、妹夫婦の艾景堂・芦恵新夫妻にもらわれ育てられた。

高杉久治は、「艾樹章」と名付けられた。小学校の頃、日本鬼子(リーベンクイズ)」といじめにあったときも養母はかばってくれ、厳冬の時には凍傷にならないよう綿入れの服に手袋を作ってくれた。



林業の専門学校へ行かせてくれ、閩家公社林業場に就職した。

1961年に李鳳珍さんと結婚し、二人の男の子に恵まれた。

一方、高杉久治の母親と弟の悟は越冬收容先である方正の收容所で亡くなった。

写真は母親の秋子と久治

つづく

日中友好協会岡山支部総会のご案内

日中友好協会岡山支部は、4月の理事会で2019年度の総会を6月16日(日)福祉交流プラザ旭東で開催することを決めました。

総会では、日中不再戦、中国帰国者支援、中国百科検定、岡山県連合会の結成などについて総括と新年度の方針を決定します。

今年には中華人民共和国成立70周年、5・4運動100周年です。

大きな節目に当たり、平和5原則の精神に基づいて友好関係を発展させる年にしたいです。総会では、太極拳の普及、中国映画を見る会」など文化活動についても話し合いたいと思っています。同時に、民主会館の事務所を活用し、会員・準会員の拡大についての方針も決めたいと思います。多数の皆さんの参加をお願いします。

「中国帰国者問題写真と資料展」を見学して

4月22日(月)、午前中に日中友好新聞の発送作業を終え、岡山市役所で開催されている「中国帰国者問題写真と資料展」を見学しました。

今回、私が最も注目したのは「満蒙開拓団大島分村(浩良大島)の足跡」の展示でした。実は日中友好協会倉敷支部では毎年日帰りの旅行を実施しているのですが、昨年の9月9日(日)には内山完造ゆかりの地である井原と満蒙開拓団の碑がある笠岡を訪ねる旅を行いました。この時、笠岡の古城山で満州開拓殉難碑や満蒙開拓団大島分村(浩良大島)について、私たちに詳しく説明していただいたのが笠岡市拓友会のみなさんでした。私たちは碑の由来や大島分村の様子、逃避行についてお話を聞き、心を打たれるとともに、さらに交流を深めましょうとお約束してその日は別れました。その後、日中友好協会倉敷支部が企画した「中国問題文

犬飼 繁

次回の新聞発送作業は
6月3日(月)午後1時半から
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方
です。

川林 田内
小小 真竹